

ドイツ *Federal Republic of Germany*

*Walpurgisnacht*

# ヴァルプルギスの夜

## ヴァルプルギスの夜とは

ヴァルプルギスの夜は、毎年4月30日から5月1日の夜に祝われる。これはヨーロッパの伝統的なお祭りで、その起源はキリスト教以前の時代にさかのぼる。1000年前には、ハルツ山地の「先住民」が春祭りを祝い、ゲルマンの最高神「ヴォダン」に様々な供物を捧げて春を迎えていたという。ハルツ山地のヴァルプルギスの夜は、通常、この地域の20以上の町で祝われる。祭りの中心となるのは、バート・グルンド、ブラウンラーゲ、ハーネンクリー、サンクト・アンドレアスベルク、シアーケ、ターレの各町である。



ハイデルベルグの野外劇場での  
ヴァルプルギスの夜

[出典:ウィキメディア・コモンズ]

## ゲーテの魔法世界

ドイツでは、ヴァルプルギスナハト (Walpurgisnacht) またはヘクセンナハト (Hexennacht、「魔女の夜」という意味) は4月30日の日没から5月1日未明にかけての夜を指し、伝えられるところによれば、魔女たちがブロッケン山で大規模な祭りを催して、春の到来を待つという。

悪魔の教団やほうきに乗った魔女の話をするときは、たいていハルツ山地のヴァルプルギスの夜のことを指している。

4月の最後の夜、闇の勢力は魔女たちと祭りを祝い。魔女たちの泡立つ大鍋のように、魔法の山の世界は、この数日間、ドイツ中からやってくる何千人ものゲストに魔法をかける。そして毎年、神秘的なブロッケン山周辺の村々は、悪魔のような魔術の舞台となる。

この夜、魔女たちの集会(サバト)がハルツ山地の最高峰ブロッケン山で開かれ、魔王を囲んでの乱痴気騒ぎが繰り広げられるとされ、とくにゲーテ『ファウスト』における描写で有名である。

魔女が押し出すブロッケン山へ、刈り株は黄色で、苗は緑よ。  
そこに大勢寄り集まるのさ、ウーリアンさんが音頭をとってね。  
そこで岩や樹の根をこえてゆく。魔女は屁をひる、牡山羊はくさい。  
バウボ婆さんが一人で来たよ。孕み豚に乗ってね。  
偉い人なら崇めにやならぬ。バウボの叔母御は先頭にお立ちよ。  
豚は屈強、乗り手は叔母御だ、そこで魔女たち皆ついてゆく。  
(ゲーテ『ファウスト第一部』相良守峯訳、岩波文庫、281ページ)



ドラクローワ画のファウスト  
[出典:ウィキメディア・コモンズ]

絵本の中から飛び出したようなカラフルな町並み、世界遺産の美しい旧市街、魔女伝説の舞台など、見どころがたっぷり詰まったドイツには「おとぎの国のよう」と称される場所がたくさんあるが、こんなにも魔法的な世界が残っているなんて奇跡のよう。ぜひ一度、ハルツ地方を訪ねてみてください。

ライブツィヒのレストラン「アウアーバッハス・ケラー」の入り口に設置された、『ファウスト』の「アウアーバッハス・ケラー」の場面で学生たちを惑わすメフィストフェレスの彫刻

[出典:ウィキメディア・コモンズ]



## 参考文献・画像出典

- Harz Festivals & Events: <https://en.harzinfo.de/festivals-events>
- Wikipedia “Walpurgis Night”: [https://en.Wikipedia.org/wiki/Walpurgis\\_Night](https://en.Wikipedia.org/wiki/Walpurgis_Night)
- Wikipedia “Faust. Eine Tragödie.”: [https://de.wikipedia.org/wiki/Faust\\_Eine\\_Tragödie](https://de.wikipedia.org/wiki/Faust_Eine_Tragödie).
- ドイツニュースダイジェスト: <http://www.newsdigest.de/newsde/features/7676-walpurgisnacht/>
- TANTANの哲学と雑学の小部屋: <https://information-station.xyz/16221.html>

## オ ス ス メ の 一 冊



ファウスト／ゲーテ著, 森 林太郎訳

(岩波書店, 1928年) 【請求記号】0800:32:C/252/1, 2

悲劇。ゲーテの代表作とされる長編の戯曲。全編が上演されることはほとんどないが、ドイツ語圏の舞台では最も観客動員数が多い作品で、ゲーテの大作であり、ドイツ文学の最高傑作であると多くの人々が考えている。全編を通して韻文で書かれている。『Faust. / Eine Tragödie』(独文)最初の完訳であるが、近代日本文学の古典として、森林太郎の名で岩波文庫に分類される。このゲーテの古典中の古典『ファウスト』を文豪森鷗外が、心血を注いで彫琢した訳文である。口語で書かれているから、今日でも評価は高く現代人にも読みやすいものとなっている。

## 執 筆 者 紹 介

Xy. Z / 言語社会研究科 修士2年

趣味は料理と拾い食い。ドイツ語圏ミュージカルを研究中、動物が大好きだけど、ワンちゃんが特に怖い。

